九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

田村悟史作成のSPレコードデータベース ： その特徴と公開に向けての課題

大久保，真利子
九州大学総合研究博物館

https://doi.org/10.15017/2558890

出版情報：九州大学総合研究博物館研究報告. 15/16, pp.31-43, 2018-03. The Kyushu University Museum
バージョン：
権利関係：

九州大学総合研究博物館研究報告第15-16合併号
Bulletin of the Kyushu University Museum
No.15-16, 2018, pp.35-43

田村悟史作成のSPレコードデータベース
── その特徴と公開に向けての課題 ──

大久保　真利子

九州大学総合研究博物館・専門研究員：〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

要旨：九州大学総合研究博物館は2014年に田村悟史氏の遺品の寄贈を受け、そのなかには約４万枚のSPレコードが含まれている。本稿は、旧蔵者の田村が作成したレコードデータベースを分析の対象とし、データベースの構造や公開に向けての課題、データベースの分析からわかる田村コレクションの特徴を明らかにするものである。

キーワード：田村悟史、SPレコード、データベース、「宝珠山小劇場」

はじめに

九州大学総合研究博物館は、2014年に田村悟史氏の遺品の寄贈を受けた[1]。その中核を成すのは約４万枚のSPレコードである。田村は所有するSPレコードについて、エクセルを用いてデータベースを作成していた。データベースとレコード現物との照合はまだはじまったばかりだが、所有するすべてのレコードをリスト化している可能性が高く、重複した盤についてもすべてに整理番号が与えられ、データが入力されている。データベースは基本的にレーベル（レコード中心付近の紙部分）の情報を抜き出したもので、入力はほぼ正確である。レーベル面に書かれた情報に関する調査結果の追記はほとんど見当たらない。

田村作成のデータベースの作成プロセスについては、まだ不明な点が多く残されている。たとえば、データ入力の際の凡例のようなものは現在のところ見つかっていない。作成された時期も不明である。また田村は、自身が代表をつとめる「有限会社 手仕事舎」を立ち上げており、田村の活動はすべて手仕事舎の社員や関係者抜きでは語ることはできない。実際データベースをみてみると、ファイルごとにデータの取り方や入力の特徴が異なっており、複数人の手によって仕上げられたであろうと推察される。将来的には関係者などに話を聞くことによって明確にしていく必要があるが、本稿においては便宜上、田村が作成したデータベースということで話をすすめていきたい。

以上のような特徴をもつ田村が作成したデータベースを分析の対象として、本稿ではまず、データベースそのもののしくみを紹介する。また、将来的なデータベースの公開を見据え、いくつかの改訂を提案する。そして最後に田村コレクションの特徴を述べる。

1　データベースの分析

1－1　ファイルの構成

データベースは音楽のジャンル別に、16のファイルに分けられている（表１、ファイル名参照）。ファイル内はすべて一つのシートしか設けられていないが、整理番号によって下位分類がなされている場合もある。下位分類があるのは、邦楽（18分類）、落語・漫才（２分類）、クラシック（２分類）である。なおファイル名は田村が記したもの、下位分類の各名称は筆者によるものである。

1－2　項目について

表１は、各ファイルの項目名を抜き出したものである。項目名が異なっていても（たとえばSP11クラシックでは

Original Title、SP12シャンソンでは題名)、横断的にみれば同じ要素が記されているものについては同じ列に並べた。そうすると田村が設定した項目名はのべ29項目あることがわかったが、本稿では便宜上【共通】【作品名】【演奏家】【レコード情報】【作家など】【その他】の六つに区分し、本稿の以下の説明において用いることとする。

表１の記載順については一部入れ替えをおこなっている。ほぼすべてのジャンルにおいて網羅的に記されている【共通】については記載順も表１のとおりである。しかしとくに【作品名】と【演奏家】については、ファイルごとに記載順が異なっている。これは各ジャンルの整理順と関係があると考えられ、各ジャンルで整理軸になっている項目が【共通】のすぐ右側に配されている（１－４にて詳述)。以下では、項目ごとに説明を加えるが、田村によるデータベースのしくみを理解するうえで重要な要素を含む【共通】については、そこに属する５項目すべてについて触れる。そして【作品名】【演奏家】【レコード情報】【作家など】【その他】については、適宜述べることとする。

１－３　項目ごとの記載事項

(1)【共通】

【共通】のうち［整理番号］［箱番号］［在庫］については、今後おこなわれる所蔵数の確定に必要な項目であるため、データベース上での統計を取り、その結果を表２に示した。なお［　］は田村が設定した項目名である。

［整理番号］

田村コレクション独自の番号であり、レコードのレーベル面に記されたレコード番号ではない。

整理番号はすべて SP からはじまりそのあとに８桁の数字が与えられている（SP ○○××△△△△)。それらは三つの意味をもつ（図１参照)。

整理番号は面ごとに付されている。両面盤の場合は、レコード１枚に対し二つの整理番号をもつ。ただし片面盤については統一されておらず、整理番号が一つの場合と二つの場合とがある。また片面盤についてはほとんどの場合、［在庫］、［種別］、［備考］などに「片面盤」と記されているが、今後記入箇所を統一する必要があるだろう。

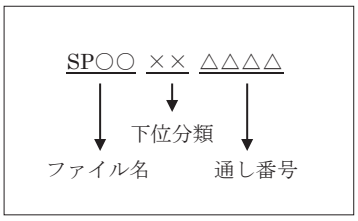

図１　整理番号の詳細

また、整理番号には欠番がみられた。筆者は欠番の意味を、もともと所蔵していたものの売却もしくは譲渡したためだと考えているが、タンゴとジャズにみられる連続した欠番に関しては別の意味もあるかもしれない。そのほかごく少数ではあるが、整理番号の重複も確認できた。

このように整理番号には欠番や重複が見られるが、田村が設定した通し番号のみを合計すると91,848面となる。ここに［整理番号］の重複を加え、［整理番号］の欠番、後述する［在庫］の「無」と「／」を除けば、データベース上からわかる推定所蔵面数をはじき出すことができる。その結果を表２の最右列に示した。現時点での推定所蔵面数の合計は、83,120面である。全てが両面盤であるなら、この数を単純に半分にすれば所蔵枚数も把握できるのだが、データベースを見る限り、片面盤も数は多くないが含まれている。片面盤か両面盤かはレコードそのものを確認することが必要となるため、現時点での推定所蔵枚数の提示は控えておきたい。

［箱番号］

田村は SP レコードを、段ボール箱に入れて保管していた。ダンボールひと箱には平均して35～50枚くらいのレコードが入れられているようだ。箱の総数は998箱である。

箱には規則的な番号がつけられており（○○－□□ もしくは ○○（××）－□□)、その意味は図２のとおりである。○○部分は、［整理番号］のファイル名の「SP」を除いた数字部分、××は同じく［整理番号］の下位分類と連動している。××は、下位分類がないジャンルにおいては省略される。

箱はほとんどのジャンルにおいて、箱番号の最後に「(未)」と記入されているものがある。その箱の中身は雑多な内容となっており、未整理のレコードが入れられているという印象をもつ。

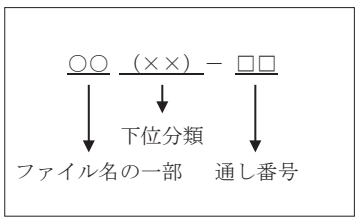

図２　箱番号の詳細

整理番号を与える作業などを終えたあとでコレクションに加えられたものが集められた箱だと考えられる。

［在庫］

［在庫］の欄には、「有」「無（無し、なし、空、む）」「／」の３種が書かれている。

田村が所有しているものは「有」となっており、３種のなかでもっとも記述頻度が高い。「無」については、整理番号のみが残っていてそのほかの演奏者や曲名の欄は空欄になっているものと、整理番号を含むすべての項目が記入されているものとがある。後者の意味として筆者は、売却もしくは譲渡したものについても、以前所有していたものとして記録に残しておこうという思いがあったのではないかと考えている。前述のとおり、整理番号が欠番になっているものについても売却もしくは譲渡したものだろうと推察したが、整理番号の欠番と在庫「無」とは、意味するものが異なるのか、それとも筆者が推察するようにどちらも以前所有していたものを指すのか、データを見るかぎり区別がつかない。

「無」が売却もしくは譲渡だとした場合、ジャンルによって偏りがあるのがわかる。たとえばSP01邦楽の09清元節では「無」が全体の0.7％なのに対し、SP04浪曲やSP08戦時歌謡などは22％となっている。手放した理由としては、重複して所有していたことや、所有していても活用しないなどが考えられる。今後、手放したレコードについても分析の対象とすることで、もし田村のなかにジャンル別のこだわりの差などがあったならば、それを紐解くためのヒントになるかもしれない。

また「／」は片面盤の無音面に与えられているようだが、前述のように片面盤には整理番号が一つのものと二つのものとがあるため、徹底されてはいない。

［評価］

Ａ～Ｄまでのアルファベットが与えられている。状態のいいものがＡで悪いものがＤである。最大に状態のいいものには「AA」が与えられているが、数はごく少数である。またＣやＤには、アルファベットによる評価のほかにカケ、ヒビ、キズなどの書き込みも見られる。そのほか、何も書かれていない場合もある。

［種別］

SP15映画音楽以外の全てのファイルに設定されている。ここには、たとえばSP04浪曲であれば「文芸浪曲」、SP11クラシックであれば「Violin & Orch.」などのように、そのジャンル内での音楽的特徴が記載されている。

（2）【作品名】

おおむね正確に記載されている。しかし、レーベル面には歌詞が記載されている場合があるのだが、田村作成のデータベースには歌詞を記入する項目が設けられておらず、ところどころ記載されている場合でも［題名］の横などにカッコを付けて書かれている。SPレコードは片面の録音時間が５分程度と短いことから、長い曲であれば数枚に分けて収録される。歌詞がある曲の場合、収録範囲をしめすために収録部分の最初と最後の歌詞、もしくは歌詞の一部をレーベルに記す場合が多い。SPレコードを活用する際、自分が欲する部分がどの面に入っているかを知るには、歌詞が重要な手がかりとなる。「歌詞」という項目を増やし、記入を徹底する必要があるだろう。

（3）【演奏家】

おおむね正確に記載されているが、旧字体と現行字体についてはあまり厳密には記されていないようだ。またいくつかのジャンルにおいて、［歌手］と［演奏家］という項目が設定されている。たとえばSP02民謡の場合、［歌手］には歌い手の名前のみ、［演奏家］には三味線や尺八の奏者名が記されている。歌手も演奏家であるだけでなく、筆者が知る限り既存のレコードデータベースでは歌手と演奏家というように分けて項目を設定したものはない。今後データベースの公開にあたっては、【演奏家】に属する５項目を集約して１項目内で工夫して記述することも検討する必要があるだろう。

（4）【レコード情報】

［レーベル名］と［レーベル番号］についてはある程度正確に記載してあるようだ。ただ［制作会社名］については、記載が途中で終っていたり、漢字表記が旧字体と現行字体とが混在していたりしており、十分注意深く見直す必要がある。

［インチ］はSP06講談とSP12クラシックにしか設定されていないが、その他のジャンルにおいて記載が必要な

場合は［種別］や［備考］に記されている。なぜ２ジャンルのみ項目が設けられたのかは不明だが、全ジャンルに記載することを検討してもいいだろう。

また［制作年月日］だが、筆者が調査した範囲においては、レーベル面に記載された年月日はすべて制作年月日と解釈して記しているようだ。しかし年代表記には、吹込み（録音）日、発売日、盤面プレス日などがあり、そのうちどれを指しているのかは調査をしてみなければわかない場合が多い。レーベル名に記された年月日の記入は重要だが、［制作年月日］という項目名そのものを見直すべきである。そして可能な範囲で、その年代が吹込み（録音）日、発売日、盤面プレス日のどれを指すものかを、当時のレコード会社が発行していた月報やカタログなどを参考にしながら追加調査し公開することによって、研究により一層役立つデータベースとなるはずである。

そのほか田村作成のデータベースにはほとんど記されていないが、盤面に刻印された「原盤番号（マトリクス番号）」については、今後データベースへの記入を検討すべき事項であろう。原盤番号によって、レコード会社やレーベルデザインが異なるものであっても、同じ音源をもちいた盤であるかどうかが判別できる場合がある。前述のとおり、田村コレクションには非常に重複が多い。今後重複した盤を把握し、音源数をもとにしたコレクション分析をおこなう際などには、必要となる項目である。

（5）【作家など】

演奏家に関する項目同様、ひとつの項目にまとめ、その中で工夫しながら記述することも可能であろう。

また田村作成のデータベースで特徴的なのが、［映画題名］が立項されていることである。田村はドキュメンタリーの映像作家でもあり、自身の映画制作に役立てるためにSPレコードの収集をはじめたとも言われている（詳細は、三島 2018参照）。映画に関する項目を設けているレコードデータベースは非常にめずらしいが、旧蔵者である田村悟史の思いを受け継ぐという目的でデータベースを公開するならば、［映画題名］の項目は活かしておくべきかもしれない。

（6）【その他】

すべてのジャンルにおいて［備考］が設けられているが、意外にもあまり活用されていない。しかしこれまで述べてきたように、設定項目の見直しなども必要であることから、今後は積極的に活用する項目になるであろう。

１－４　ジャンルについて

ここからは、表１および表２の縦列に示したジャンルに注目し、田村による整理軸やジャンル分けに関する課題などについて述べていく。

前述のとおり、田村は約４万枚のレコードを16のジャンルに分け、邦楽、落語、クラシックについては下位分類を設けて整理をしていた。SP03流行歌には「(新)」が付いているが、この意味については不明である。

１－２でも簡単に触れたとおり、整理番号はランダムに振られたわけではなく、ジャンルごとに一定の軸をもって整理されたあとに付されたようだ。各ジャンルの整理軸は、表１の網かけ部分のとおりである。すべての整理軸において50音順もしくはアルファベット順という項目が付加されており、エクセルで確実に検索できるしくみとなっている。

整理軸についてもう少し詳しくみてみよう。まず【作品名】が軸となっているのは、日本音楽においては、邦楽、民謡、童謡、戦時歌謡、映画説明、日本一般で、西洋音楽においては、シャンソン、タンゴ、映画音楽、洋楽一般である。また【演奏家】を軸に整理されているのは、日本音楽のなかでは流行歌、浪曲、落語・漫才、講談、西洋音楽ではジャズが広義においては演奏家といえる［楽団］を軸に整理されている。特異なのはクラシックで、作曲家ごとの整理となっている。

このようにジャンルごとに整理軸が異なるのは、田村自身のジャンルごとの興味のあり方を示しているようにも思われる。田村は自身が所有するSPレコードを用いて、活動拠点とした「宝珠山小劇場」において「SPレコード研究会」と称する公開レコード試聴会を開催していた。たとえば1999年２月７日には「廣澤虎造の世界――清水次郎長伝――」、2001年１月21日には「流行歌からみた戦後の世相三人娘（美空ひばり、江利チエミ、雪村いずみ）」などを開催している。いずれも演奏家に着目した試聴会であり、浪曲や流行歌などは演奏家を軸に整理しておいた方が田村自身の使い勝手が良かったのだと思われる。今後「SPレコード研究会」をはじめ田村によるSPレコードの活用実態について研究をすすめるな

かで、田村が作成したデータベースとの関連性についても掘り下げていきたい。

さて田村作成のデータベースのジャンルに関することでもっとも改訂すべき点は、音楽的特徴により複数のジャンル分けが可能なものについて、属するジャンルが明確に決められていないことである。たとえば、和洋合奏（和楽器とオーケストラの合奏）の≪越後獅子≫については、原曲の長唄≪越後獅子≫が属する SP01邦楽内の01長唄に記入されている場合もあれば、SP10日本一般に入れられているものもある。このような複数の音楽的特徴をもつレコードをどのジャンルに入れるかということは、レコードデータベースの凡例などを作ってコレクションごとにきちんと管理されるべき問題である。

そのほかジャンルをめぐる問題には、一部のレコードにおいて、レーベルに書かれたジャンルをそのままデータ化しても、同じ音源が同じジャンルに振り分けられない可能性があるという問題もある。国立国会図書館の歴史的音源（通称、れきおん）でも、レコード会社や時代による「ジャンル名の揺れ（例：「民謡」と「俚謡」、「歌謡曲」と「流行歌」など）」[2]があることを指摘している。そこでれきおんでは「統制語」という項目を設け、レーベルに書いてあるジャンル名だけで不十分な場合は、れきおん独自のジャンルを付与しているようだ。

今後、ジャンルの見直しとともに「ジャンル名の揺れ」にどのように対処していくか十分に検討していくべきであろう。

2　田村コレクションの特徴

約４万枚もの SP レコードとともに、田村が作成したデータベースも同時に寄贈を受けたことにより、コレクションの全貌をいち早くつかむことができた。今後、田村コレクション内の SP レコードを包括的にも個別的にも評価していく必要があるが、その足がかりとして本節では、田村作成のデータベースを分析した範囲でわかる田村コレクションの特徴を示してみたい。

まず日本国内で確認できる個人コレクションの所蔵内容の傾向をみてみたい。たとえば東京文化財研究所が所蔵する安原仙三コレクションは、日本音楽に関するレコードのみの総レコード数は約6,000枚で、なかでも義太夫節や歌舞伎音楽などの劇音楽が主要部分を占めている（渡邊 1999）。また国際日本文化研究センターが2014年度に寄贈を受けた森川司コレクションの総数は、SP レコード13,172枚、LP レコード134枚であるが、全てが浪花節に関するレコードである（古川 2017）。そのほか、「野村胡堂・あらえびす記念館」のコレクションを形成した野村胡堂は、クラシック音楽のコレクターや評論家として有名である[3]。このように個人コレクションの多くは、何らかのジャンルを中心に形成される場合が多い。

つぎに、日本最大のレコード情報を公開している、れきおんの例をみてみよう。れきおんは、2007年時点で日本の主要なレコード会社等に現存していた SP レコードや金属原盤などをもとにして、レコード情報とともに音源も公開したものである。公開数は、48,661音源である。れきおんのレーベル情報および音源を作成したのは、HiRAC（歴史的音盤アーカイブ推進協議会）だが、HiRAC の創設メンバーのひとりである藤本草氏によれば、戦火などを経て現在確認できる SP レコードの音源数は約10万であり、そのうち約半数の５万音源は現存するレコード会社が所有し、２万５千音源は放送局、民間愛好家、全国の資料館などに所蔵され、その残りの２万５千音源については散逸・消去したとしている（藤本 2011）。つまりれきおんのレコードデータは、特定のジャンルを意図的に収集されたものではなく、レコード会社に現存する金属原盤やレコード盤をもとに形成されたものである。

このように個人コレクションとれきおんとでは、収集経緯もレコードの構成内容も異なるが、田村コレクションの場合、個人コレクションでありながら表２からもわかるように、特定のジャンルに偏りのないものだ捉えるべきである。

おわりに

田村が作成したデータベースは、データベースのしくみを分析するかぎりにおいては、田村自身が活用することを目的として作られたことが明らかとなった。今後は九州大学総合研究博物館が所蔵する資料のひとつとして田村コレクションのデータベース化をすすめ公開するために、本稿で提案した項目設定の見直しや歌詞や原盤番号を記入する項目を追加するなど、既存のレコードデー

タベースなどを参考にしながら検討を加えていく必要がある。また、著作権などクリアすべき問題も多いが、音源の公開について望む声も多い。レコードに関する情報のほとんどが記入されているレーベル面の画像についても同様である。

今後進めるべき調査の筆頭には、田村コレクション内の全レコードとデータベースとの照合が挙げられる。その結果、記入漏れなどがあった場合、所蔵面数などが変わる可能性がある。このような調査結果についても時期をみて追加報告したい。そして今後は、ご遺族や関係者からの聞き取りなどにより、データベースの作成経緯や作業の実際についても明らかにしていきたい。

注

1　寄贈の経緯やコレクションの詳細については、(三島 2018) を参照のこと。

2　http://rekion.dl.ndl.go.jp/ja/aboutRekion.html#about1_5a (2017年９月30日アクセス)。

3 「野村胡堂・あらえびす記念館」のホームページ（http://kodo-araebisu.jp/?page_id=359）を参考にした（2017年９月30日アクセス)。

参考文献

藤本草　2011「SP 盤のデジタル化 利用と保存の両立をめざして」、『国立国会図書館月報』606号：4-6、東京：国立国会図書館.

古川綾子　2017「浪曲 SP レコード・デジタルアーカイブ――2015年12月スタート、現状報告と展望――」(国際日本文化研究センター「大衆文化プロジェクト」研究会配付資料、2017年９月１日).

三島美佐子　2018「田村悟史コレクションの受け入れ経緯およびコレクション概要」九州大学総合研究博物館研究報告15-16: 31-34.

渡邊明義　1999「序」、東京国立文化財研究所芸能部（編）『音盤目録Ⅰ・Ⅱ』：頁数なし、東京：東京国立文化財研究所.

Received September 30, 2017; accepted October 2, 2017

表1　ファイルの構成と記載項目

区分／ファイル名	【共通】					【作品名】				【演奏家】					【レコード情報】					【作家など】									【その他】
SP01邦楽※1	整理番号	箱番号	在庫	評価	種別	50音順	題名			歌手・演奏家・役者50音	歌手・役者名	演奏家		楽団・演奏	レーベル名	レーベル番号	制作会社名		制作年月日	作詞		作曲	編曲	作者					備考
SP02民謡	整理番号	箱番号	在庫	評価	種別	題50音	題名			人50音	歌手	演奏家		楽団	レーベル	レーベル番号	製作会社		製作年月日	作詞		作曲	編曲					映画題名	備考
SP03流行歌(新)	整理番号	箱番号	在庫	評価	種別	題50音	題名			人50音	歌手	演奏家		楽団	レーベル	レーベル番号	製作会社		製作年月日	作詞		作曲	編曲	作・構成・演出		役者・話し手	指揮者	映画題名	備考
SP04浪曲	整理番号	箱番号	在庫	評価	種別	題50音	題名			人50音	芸人			楽団	レーベル	レーベル番号	製作会社		製作年月日	作詞		作曲	編曲	作者	脚色			映画題名	備考
SP05落語・05(1)漫才※2	整理番号	箱番号	在庫	評価	種別	題50音	題名			人50音	芸人			楽団	レーベル	レーベル番号	製作会社		製作年月日	作詞		作曲	編曲	作者	脚色				備考
SP06講談	整理番号	箱番号	在庫	評価	種別	題50音順	題名			講談者50音	講談者	演奏			レーベル名	レーベル番号	制作会社名	インチ	制作年月日	作者									備考
SP07童謡	整理番号	箱番号	在庫	評価	種別	題50音	題名			人50音	歌手	演奏家		楽団	レーベル	レーベル番号	製作会社		製作年月日	作詞		作曲	編曲	作・構成・演出		役者・話し手	指揮者		備考
SP08戦時歌謡	整理番号	箱番号	在庫	評価	種別	題50音	題名			人50音	歌手	演奏家		楽団	レーベル	レーベル番号	製作会社		製作年月日	作詞		作曲	編曲	作・構成・演出		役者・話し手	指揮者	映画題名	備考
SP09映画説明	整理番号	箱番号	在庫	評価	種別	題50音	題名			役者・説明者50音	歌手	役者・説明者		楽団	レーベル名	レーベル番号	製作会社名		製作年月日	作詞・原作		作曲	編曲	構成	脚色			映画	備考
SP10日本一般	整理番号	箱番号	在庫	評価	種別	題50音	題名			人50音	歌手	演奏家		楽団	レーベル	レーベル番号	製作会社		製作年月日	作詞		作曲	編曲	作・構成・演出		役者・話し手	指揮者	映画題名	備考
SP11クラシック※3	整理番号	箱番号	在庫	評価	種別		題名		Original Title		歌手名	演奏家		楽団	レーベル	レーベル番号	制作会社名	インチ	制作年月日	作詞	作曲家アルファベット順	作曲家	編曲				指揮者		備考
SP12シャンソン	整理番号	箱番号	在庫	評価	種別	和題50音	日本語題名	題アルファベット順	題名	歌手50音	歌手名			楽団	レーベル名	レーベル番号	制作会社名		制作年月日	作詞		作曲	編曲				指揮者	映画題名	備考
SP13タンゴ	整理番号	箱番号	在庫	評価	種別	和題50音	日本語題名	題名アルファベット	題名		歌手名	演奏家		楽団・演奏	レーベル	レーベル番号	制作会社名		制作年月日	作詞　作曲　編曲							指揮者	映画題名	備考
SP14ジャズ	整理番号	箱番号	在庫	評価	種別	和題50音	日本語題名	題アルファベット順	題名	演奏家アルファベット順	歌手名	演奏家	楽団アルファベット順	楽団	レーベル	レーベル番号	製作会社		制作年月日	作詞・作曲・編曲							指揮者	洋画題名	備考
SP15映画音楽	整理番号	箱番号	在庫	評価		和題50音	日本語題名	題アルファベット順	題名		歌手名	演奏家		楽団	レーベル	レーベル番号	製作会社		制作年月日	作詞・作曲・編曲							指揮者	映画題名	備考
SP16洋楽一般	整理番号	箱番号	在庫	評価	種別	50音	日本語題名	題アルファベット順	題名		歌手名	演奏家・楽団			レーベル	レーベル番号	制作会社名		制作年月日	作詞・作曲・編曲								洋画題名	備考

※1　下位分類として、長唄、端唄、小唄、うた沢、浄瑠璃、義太夫節、常磐津節、新内節、清元節、俗曲、謡曲、地歌、琵琶、尺八、箏曲、詩吟、御詠歌、歌舞伎劇がある。
※2　下位分類として、落語と漫才がある。
※3　下位分類として、オーケストラ・コンチェルト・オペラ、ピアノ・声楽がある。

表２　【共通】の統計

ファイル名	下位分類	［整理番号］（単位：面）			［箱番号］		［在庫］（単位：面）		推定所蔵面数
		通し番号	欠番	重複	箱の総数	「未」と書かれた箱番号	無	／	
SP01邦楽	01長唄	5,102	1	0	58	56～58	168	5	4,928
	02端唄	2,996	18	0	34	34	53	6	2,919
	03小唄	2,774	5	0	28	26～28	47	0	2,722
	04うた沢	114	0	0	2	2	0	0	114
	05浄瑠璃	524	0	0	6	6	0	54	470
	06義太夫節	1,830	11	2	19	17～19	0	88	1,733
	07常磐津節	670	0	0	8	8	0	0	670
	08新内節	188	0	0	3	3	2	0	186
	09清元節	1,118	0	0	12	12	8	2	1,108
	10俗曲	234	0	0	3	3	4	0	230
	11謡曲	606	0	0	7	7	2	7	597
	12地歌	48	0	0	1	なし	0	1	47
	13琵琶	1,112	15	0	12	11～12	4	32	1,061
	14尺八	330	9	0	5	5	4	5	312
	15箏曲	584	0	0	6	6	4	4	576
	16詩吟	141	0	0	2	2	0	1	140
	17御詠歌	182	0	0	2	なし	0	0	182
	18歌舞伎劇	608	0	0	7	7	0	0	608
SP02民謡		4,024	17	0	41	36～41	364	0	3,643
SP03流行歌（新）		16,325	51	2	177	149～177	3617	1	12,658
SP04浪曲		10,571	23	0	110	102～110	293	2	10,253
SP05落語・05(1) 漫才	00落語	1,483	1	2	14	13～14	12	0	1,472
	01漫才	1,060	0	0	12	11～12	14	0	1,046
SP06講談		36	0	0	1	1	0	0	36
SP07童謡		3,352	0	0	32	28～32	272	0	3,080
SP08戦時歌謡		2,614	79	0	28	23～28	578	0	1,957
SP09映画説明		1,436	10	0	15	15	30	0	1,396
SP10日本一般		6,800	9	0	67	58～67	461	10	6,320
SP11クラシック	00オーケストラ・コンチェルト・オペラ	9,219	22	0	134	107の一部、108～134	432	29	8,736
	01ピアノ・声楽	3,402	37	0	36	なし	72	13	3,280
SP12シャンソン		516	0	0	6	5～6	36	0	480
SP13タンゴ		3,613	143※1	0	33	29～33	226	0	3,244
SP14ジャズ		3,438	695※2	0	30	27～30	361	0	2,382
SP15映画音楽		786	0	3	9	なし	76	0	713
SP16洋楽一般		4,012	0	0	38	34～38	191	0	3,821
合　計		91,848	1,146	9	998		7,331	260	83,120

※１　途中、連続して139欠番
※２　途中、連続して54、618欠番

SP Record Database Produced by Satoshi Tamura – Features and Challenges for Publication –

Mariko OKUBO

The Kyushu University Museum: 6-10-1 Hakozaki, Higashi-ku, Fukuoka, 812-8581, Japan

The Kyushu University Museum received a donation of Mr. Satoshi Tamura's relics in 2014, among which about 40,000 SP records are included. In this paper, we analyzed the record database produced by former possessor Mr. Tamura, to clarify database structure and issues for publication, and characteristics of Tamura collection which can be understood from analysis of database.

Keywords: Satoshi Tamura, SP record, database, "Small Theater of Houshuyama"